
晩秋散歩

森かえで

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

晩秋散歩

【Nコード】

N1386B

【作者名】

森かえで

【あらすじ】

季節の変わり目と、時の流れ。ほんの少し乙女チックな詩です。
(タイトル変更しました)

サンダルじゃ寒いわ。

気付いた時には遅かった。チロは瞬間のスタートダッシュ、暮れ
なすむ夕暮れの中に私を引きずり込んでった。

私が履いてきちゃったサンダルって、普通のいわゆるビーチサン
ダル。足先は感覚がなくなるほどに冷たいし、足を前に出す度に親
指と人差し指の間に紐が食い込むし。チロはまだ道草くおうとせず
に走り続けてるし。

だいたい、今の時期にビーチサンダルがほつぽってあることが間
違ってるのだ。酸欠でくらくらしながらも、そんな責任転嫁の口上
はどんどん頭の中に浮かんでくる。

銀杏並木の通学路。朝は賑やかなこの路地を、一人と一匹の足音
と、風の音だけが通り過ぎて行く。頭の上を仰ぐと、裸の小枝の網
目模様。オレンジがかった藍色の空をバックに広がっている。

こないだまで黄色い葉っぱをつけて、実をグシャグシャ、道いつ
ぱいに落としてたのに。

時が経つのが速い。

ほら、だんだん、夕日の名残の色も見えなくなってきた。

チロがやっとスピードを緩めた頃、すっかり暗くなってる東の空
に、二つの星を見つける。

チャリチャリ、ベルを鳴らしながら、私の肩をかすめるサラリー
マンのおじさん。かすかに感じるのは、石焼芋の歌、おでんっぽい
臭い。どこからきてるんだろ。

チロがまた走りだす。おじさんも石焼芋もおでんの臭いも、双子
の星までも遥か後方へ流れ去ってく。景色はめまぐるしく変わって
く。

もうすぐ冬だな、新しいマフラー買わなきゃなあ。

そんなこと考えながら、なんだか胸の奥がきゅうんと苦しくなっ

てしまつて。

短い散歩道のはずが、これじゃセンチメンタル・ジャーニーだ。
凍えた爪先を回れ右させて、家路につこう。早くこたつだしてよ、
とおねだりしたりしよう。ゆつたりした、あつたかい時間を過ごそ
う。

サンダルの音が、ぱたぱた、寒空に響いて消えた。

（後書き）

実家で愛犬と散歩したときの気持ちを思い出しながら書きました。
感想頂けたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1386b/>

晩秋散歩

2010年10月16日14時37分発行